

中学校第1学年社会科（歴史的分野）学習指導案

令和 年 月 日（ ）第 校時

1年 組 人

〇〇市町村立〇〇中学校

指導者 教諭 〇〇〇〇〇

1 単元名（中学社会 歴史 未来をひらく 教育出版）

結びつく民衆と下剋上の社会

2 単元の目標

- (1) 農業など諸産業の発達、畿内を中心とした都市や農村における自治的な仕組の成立、武士や民衆などの多様な文化の形成、応仁の乱後の社会的な変動などを基に、民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを理解する。 【知識及び理解】
- (2) 農業や商工業の発達に着目して、事象を相互に関連付けるなどして、中世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現する。 【思考力、判断力、表現力等】
- (3) 民衆の成長と新たな文化の形成について、民衆がどのようにして力をもつようになったか、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする。 【学びに向かう力、人間性等】

3 単元の指導計画（4時間）

○ 民衆の成長は、どのような社会や文化を形づくっていったのだろうか。（単元を貫く学習課題）

主 題	時	学習課題	主な学習活動
11 団結する村、にぎわう町 ▶産業の発達と民衆の成長	1	室町時代の産業の発達は、人々の暮らしをどのように変化させたのだろうか。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 資料や教科書本文から、農業や手工業の発達について具体的に何がつくられていたのかを調べる。 ○ 室町時代に、自治の動きが現れてきた背景について考察し説明する。
12 下剋上の世へ ▶応仁の乱と戦国大名の出現	1	地方の人々が力を付けるなかで、社会にはどのような変化があったのだろうか。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 資料や教科書本文から、応仁の乱の背景や内容について理解する。 ○ 戦国大名が台頭した背景について、「応仁の乱、民衆、下剋上」の用語を使用して説明する。
13 今につながる文化の芽生え ▶室町文化とその広まり	1 (3/5)	室町時代には、どのような特色をもった文化が生まれたのだろうか。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 資料や教科書本文から、金閣と銀閣の違いについて考える。 ○ 資料や教科書本文から、室町時代の文化が現在でも受け継がれていることを確認する。 ○ 東山文化の特色を調べ発表する。
	1 (4/5) 本時	室町時代、河原者と呼ばれる人々は、どのような人々だったのだろうか。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 資料から、室町時代に河原者と呼ばれる人々が担った職業を確認する。 ○ 資料から室町時代の人々にとって、河原者と呼ばれる人々は、どのような人々であったのかを調べる。 ○ 室町時代の人々の差別意識と同じような意識が自分や学級にないか考える。

○ 単元の学習を振り返り、まとめよう	1	民衆の成長は、どのような社会や文化を形づくっていったのだろうか。	○ 室町時代には、手工業が発達し、それになぞさわる職人にはどのような人がいたのかを調べる。 ○ 室町時代に民衆が力をもつことができたのはなぜかをまとめる。 ○ まとめた内容を発表し合い、最終的な自分の意見をまとめる。また、そこにはどのような課題があったのかも考える。
--------------------	---	----------------------------------	---

4 授業づくりに当たって

室町時代には、武士と貴族の文化が融合し、日本的な美意識や生活様式をもつ文化が形成されたことを理解するとともに、現在まで受け継がれているものが多いことに気付かせ、その特色を理解できるようにする。

本単元について小学校では、室町時代に生まれた文化が、今も多くの人々に親しまれていることを理解する学習を行っている。教科書には、龍安寺の石庭について、「身分のうえで差別されてきた人たちが活躍しました。」との記述があり学習している。さらに、人権教育の観点から、室町時代の人々の異質なものを排除する当時の考え方（忌避意識）や自然現象に対する見方・考え方について、資料等を活用して調べる学習を通して、差別の不合理さや差別される側の思いや願いを知り、差別する側の思いにも想像をふくらませながら学ぶ機会もある。

そこで、本時の授業づくりに当たっては、中世に活躍した「河原者」と呼ばれる人々の担った役割や当時の人々の考え方を理解できるようにする。その際、当時の人々の河原者への意識が「畏怖・畏敬」の対象から、ケガレを清める力をもつ異質な存在として差別する意識へ変わった。さらに、村では共同体の形成が始まり、異質な者に対する排除の意識、差別意識が強まったことに気付かせ、人々の中にあつたケガレ意識について考えることができるようにする。

この学習を、江戸時代には、こういったケガレ意識が、身分制により身分が固定化され、社会の仕組として差別も強まってきたことを理解するとともに、差別の不合理さを実感し、被差別身分の人々が差別の中をどう生き抜いていったのかを考える学習につなげる。

5 中学校学習指導要領解説社会編の位置付け

第2章 社会科の目標及び内容

第2節 2 歴史的分野の目標、内容及び内容の取扱い

B 近世までの日本とアジア

(2) 中世の日本

ここでは、12世紀ごろから16世紀ごろまでの歴史を扱い、我が国の中世の特色を、世界の動きとの関連を踏まえて課題を追究したり解決したりする活動を通して学習することをねらいとしている。

この時期の我が国では、武士が台頭して武家政権が成立し、その支配が次第に全国に広まるとともに、東アジアの中で大きな変化が見られ、それが我が国の政治や社会、文化などに影響を与えた。また、農業など諸産業が発達し、都市や農村に自治的な仕組が成立したり、民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたりした。

ア 次のような知識を身に付けること。

(ウ) 民衆の成長と新たな文化の形成

農業など諸産業の発達、畿内を中心とした都市や農村における自治的な仕組みの成立、武士や民衆などの多様な文化の形成、応仁の乱後の社会的な変動などを基に、民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを理解すること。

(内容の取扱い)

(2)のアの(ウ)の「武士や民衆などの多様な文化の形成」については、代表的な事例を取り上げてその特色を捉えさせるようにすること。その際、この時代の文化の中に現在に結びつくものがみられることに気付かせるようにすること。また、禅宗の文化的な影響についても触れること。「応仁の乱後の社会的な変動」については、戦国の動乱も取り扱うようにすること。

6 部落問題学習における学びの視点

【令和5年度版人権教育研修資料「なくそう差別 築こう明るい社会」(P.12~13)から】

視点① 人々の生活を支え、文化の創造・継承に努めてきたことに気付く。

視点② 厳しく差別されてきた身分の人々への差別の不合理さについて考える。

視点③ 厳しく差別されてきた身分の人々が不合理な差別の中をどのような思いで生きてきたかを理解する。

※ 学びの視点については、一つの視点を重点的に扱う方法や、教育課程の時間配分によっては複数の視点で授業を構成する方法等、生徒の実態等に応じて工夫する。

7 前時(8/9)

(1) 目標

ア 室町時代に形成された文化について、武士と貴族の文化が融合し、日本的な美意識や生活様式が生まれ、その中には現在にも受け継がれているものが多いことを理解する。【知識及び技能】

イ 室町時代の文化の特色を、資料を基に多面的・多角的に捉え、東山文化の特色を自分の言葉で整理し説明する。【思考力、判断力、表現力等】

ウ 室町時代の文化が現在の生活や文化に影響を与えていることに気付き、現在に伝わる文化遺産を尊重しようとする。【学びに向かう人間性等】

(2) 実際

学習過程	主な学習活動	時間(分)	◆指導上の留意点・学習資料
導入	1 資料を基に金閣の特徴について、金閣と銀閣の違いに注目しながら話し合う。 2 学習課題を設定する。 室町時代の文化は、どのような特色をもっていたのだろうか。	5	◆ 教科書等の「金閣」の写真から、足利義満の力の大きさを捉えることができるようにする。また、教科書等の「金閣」と「銀閣」の写真を比較し、室町時代後期の時代背景と関連付けられるようにする。
展開	3 教科書本文や資料「東求堂同仁齋」「慕婦絵詞」「洛中洛外図屏風」から、能、茶道、華道など室町時代の文化が現在でも受け継がれていることを調べ、まとめる。 ・ 現在の和室、床の間、違い棚、縁側、掛け軸、畳、能、茶、華道など	10	◆ 室町時代の文化や建築様式等が現在まで受け継がれていることを押さえる。
閉	4 資料「龍安寺の石庭」の写真を確認後、タブレットを使用し「龍安寺の石庭」を調べる。また、教科書のコラム「庭造りに活躍した人々」から河原者と呼ばれる人々は、優れた技術をもっていたことを知る。	10	◆ タブレット等を使い、WEB「全国日本庭園マップ」のウェブページで、龍安寺の石庭を調べることを通して、河原者と呼ばれる人々の高い技術を確認する。
	5 足利義政のころの銀閣に代表される東山文化の特色を調べ発表する。	10	◆ 教科書本文や資料「銀閣」「龍安寺の石庭」を基にして、室町時代後期の時代

	<ul style="list-style-type: none"> 質素で落ち着いた文化であった。 河原者と呼ばれる人々が重用された。 <p>6 教科書本文や資料から、室町時代の民衆の生活の様子などをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 狂言…能の合間に演じられる 御伽草子…現在にも語り継がれている 節分・七夕などの行事 	5	<p>背景と関連付けながら理解を深められるようにする。</p> <p>◆ 庶民の生活の中から芸能が生まれていることに気付くことができるようにする。</p>
終末	<p>7 室町文化の特色と室町文化と現在とのつながりをまとめる。</p> <p>室町時代の文化は、貴族の文化と禅宗の影響を受けた武士の文化が混じり合った、現在につながる文化で、民衆にも広まった。</p>	10	<p>◆ 茶道や能、書院造の床の間などは、現在でも受け継がれている作法や建築文化であることをまとめる。</p>

8 本時【学びの視点①②を中心にした実践例】

(1) 目標

ア 資料を基に、室町時代に活躍した「河原者」と呼ばれる人々が庭造り、能楽、履物づくりなど、当時の社会や文化を支える重要な仕事を担っていたことや当時の人々の考え方を理解する。

【知識及び理解】

イ 室町時代の人々が河原者を、「差別」「仕事」「活躍した事実」の視点で整理し、差別意識について多面的・多角的に考察することができる。

【思考力、判断力、表現力等】

ウ 偏見によって差別がどのように生まれるかを理解し、自分や学級の中に同じような意識がないかを振り返り、差別を許さない態度を身に付けようとしている。

【学びに向かう力、人間性等】

(2) 実際

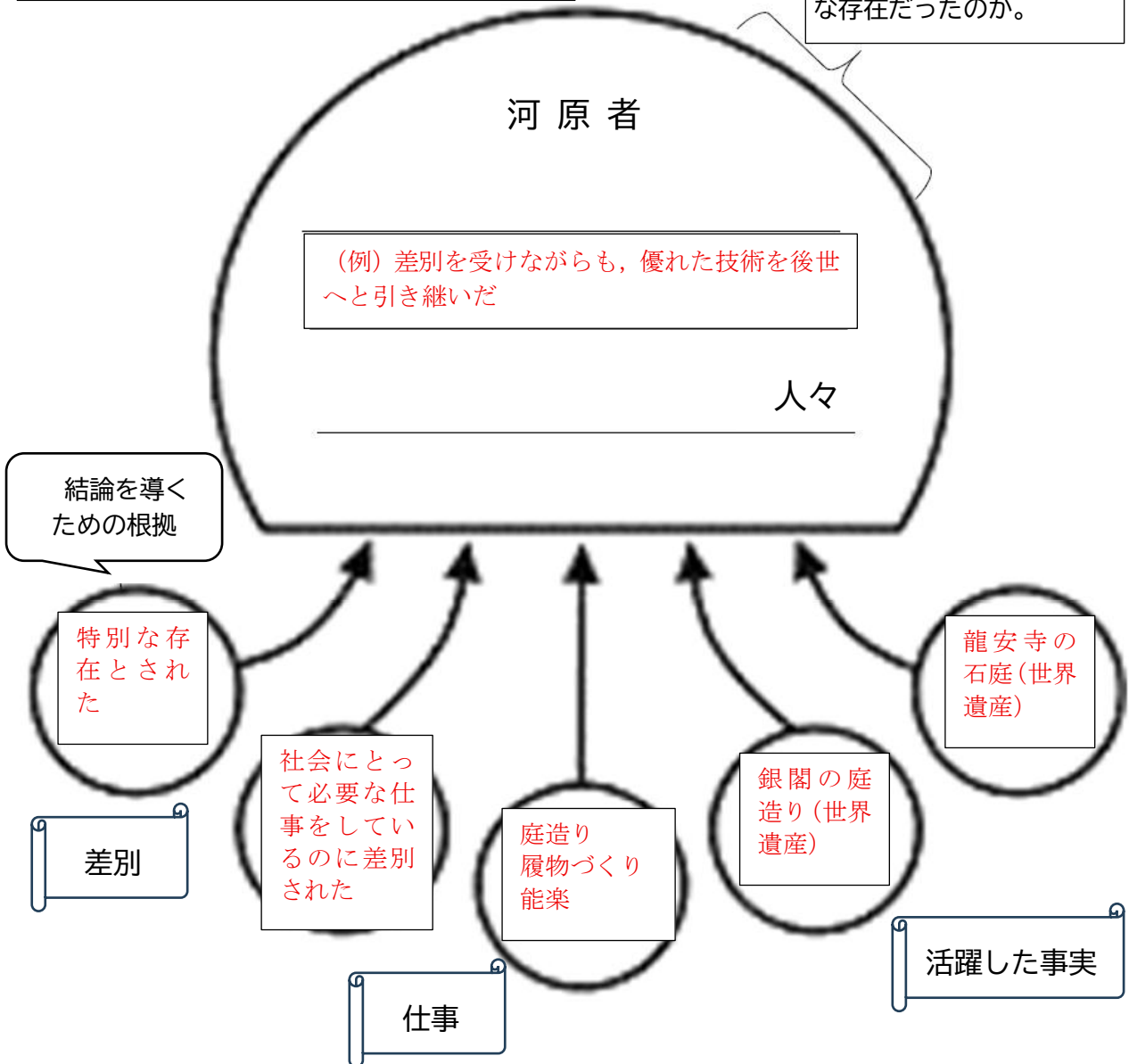
学習過程	主な学習活動	時間(分)	◆指導上の留意点・学習資料
導入	<p>1 学習課題を設定する。</p> <p>室町時代、河原者と呼ばれる人々は、どのような人々だったのだろうか。</p>	5	<p>◆ p. 87「庭造りに活躍した人々」を読み、気になること、よく分からないこと、もっと知りたいことはないかを問い、学習課題へとつなげる。</p>
展開	<p>2 学習資料①から室町時代、河原者と呼ばれる人々が担った職業を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 現在にもつながっている職業である。 なくてはならない職業である。 <p>3 教科書や学習資料①～④から、室町時代の人々にとって、河原者と呼ばれる人々は、どのような存在であったのかを調べ、グループで話し合ったことを全体で交流する。</p> <p>(1) 1人調べ (2) グループで意見交流 (3) 全体交流</p> <ul style="list-style-type: none"> 優れた技術をもった人を差別した。 	5 15	<p>【視点①】人々の生活を支え、文化の創造・継承に努めてきたことに気付けるようにする。</p> <p>◆ 河原者と呼ばれる人々が担っていた、多様な産業や文化が現在にもつながっていることが認識できるように説明を加える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習資料①「河原者が担った仕事」 <p>◆ ワークシート「くらげチャート」を活用してまとめる。</p> <p>◆ 結論を導く根拠を、「差別」「仕事」「活躍した事実」の視点からまとめる。</p> <p>【視点②】厳しく差別されてきた身分の人々への差別の不合理さについて考えることができるようにする。</p> <p>【視点③】厳しく差別されてきた身分の</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特定の仕事や役割を担った人々に対する偏見が生まれた。 ・ 自分たちとは違う暮らしをしている人を差別した。 ・ 庭造りや能楽など現在にも受け継がれている文化をつくった。 ・ 世界遺産である「銀閣」や「龍安寺」の庭造りを担った。 ・ 足利義政が重用した。 ・ 差別をされていたにも関わらず、技術を学び続ける姿は、すごい。 <p>4 3でまとめたことを基に、「人々は、なぜ差別をしたのか」を考え、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分も「違う人たち」と思われるのが怖かった。 ・ 河原者と呼ばれる人々と一緒にいることで、自分も差別されてしまうようになるのが怖かった。 ・ ケガレに触れることで、自分も不幸になってしまうのではないかと考えた。 <p>5 室町時代の人々の差別意識と同じような意識が自分や学級にないか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 憧れからひがみに変わった。 ・ からかいの対象にした。 ・ 自分の考えと違う人を仲間はずれにした。 	<p>10</p> <p>5</p>	<p>人々が不合理な差別の中をどのような思いで生きてきたかを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習資料②「当時の人々の考え方」 ・ 学習資料③「銀閣（慈照寺）と又四郎」 ・ 学習資料④「龍安寺の石庭の謎」 <p>◆ 生徒の実態に応じて、「令和5年度版なくそう差別 築こう明るい社会」のp.18に記載されている触穢思想について触れてもよい。</p> <p>◆ 学習資料③の又四郎に関する記述や1人調べの中で見つかった資料等から視点③について考えることができるようにする。</p> <p>◆ 学習活動3でとどまっている生徒には、「なぜ」と問いかけるなど切り返しの発問をする。</p> <p>◆ うわさ話や根拠のない理由をつくり上げて誰かを排除・差別することはないか振り返ることができるようにする。</p> <p>◆ 新型コロナウイルスが流行した当初、未知のウイルスに対する恐れから科学的根拠のないうわさが広がったり、差別が起きたりしたことを伝え、差別は今でも身近なところで起きる可能性が高いことを確認する。</p>
<p>終末</p>	<p>6 学習のまとめをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>河原者と呼ばれる人々は、差別を受けながらも、優れた技術や文化を後世へと引き継いだ。</p> </div> <p>7 本時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 排除する考え方は、今も昔も変わらず存在しており、自分の中にも知らないうちに差別をしていたことに気付いた。 ・ 今までと違う視点から歴史を見ると、社会の見え方が変わることに気付いた。 ・ この時代に、身分ではなく技術をもって付き合おうとした人がいたことが分かった。 ・ この時代に自分が生きていたら、自分は、差別しないと言いきれるだろうか。 	<p>5</p> <p>5</p>	<p>◆ 銀閣の庭園は、室町時代の8代将軍足利義政に重用された庭師の善阿弥とその子孫による作品と言われている。当時の人々の中にも、身分ではなく技術をもって付き合おうとした人がいたこと、そのような人の存在が文化を生み出し、残すことにつながったことを伝える。</p> <p>◆ 何か理由を付けて人を排除・差別することはないか、自分たちの生活と重ねて感想を書くようにする。</p> <p>◆ 自分たちのクラスについて考えることで、自分事として捉え、自分の生き方を問うような時間とする。</p>

ワークシート【くらげチャート】

※ くらげの頭の部分に自分の主張したい結論
記入し，足の部分にその根拠を記入すること
で，主張を整理することができます。

多面的・多角的に見て，河
原者と呼ばれる人々はどん
な存在だったのか。



なぜ，人々は，河原者と呼ばれる人を差別したのか。

本時の学習の感想
